

尼崎市立尼崎養護学校〈高等部〉 脇田 範子 山岸いづみ  
野下 裕久 吉田 武史

## 1. はじめに

日々、様々な障害を有する生徒たちと関わりながら、コミュニケーションの難しさを私たちは感じている。

たとえば、まばたきをするという約束にして、意思の伝達ができればそれでも良いわけである。しかし、世の中の事象すべてが「はい」と「いいえ」で表せるわけではないし、「はい」「いいえ」形式のコミュニケーションは問いに対する答えに限定され、「自己決定」「自己表現」が弱められるとも言われている。そこで、絵カードを本人が見て、どこを見ているかによって意思を確認するというようなやり方も日々の学習活動では使われている。このような考え方を発展させていけば、もっと明確にコミュニケーションをおこなうことができるのではないかと、という考えから生まれたのがコミュニケーション・エイドである。本校ではすでにビッグマックやステップバイステップコミュニケーター、トーキングエイド等の支援機器が使われている。1人ひとりのコミュニケーションや機器の操作方法に差はあるが、いろいろな生活場面で活用しやすい支援機器の研究をテーマに1年間取り組んでみた。ここでは、より生活場面に応じた支援機器であるスーパーカーを取り上げ、その使用方法や実践例を紹介する。

※以後「ステップバイステップコミュニケーター」を「ステップバイステップ」と表記する

## 2. 実践報告

### (1) 新しいVOCA「スーパーカー」について

2005年5月にパシフィックサプライ主催のAAC機器の説明会に参加した時に、新製品として紹介された。機器の特徴は次のとおりである。



スーパーカー

- 録音時間が8分間あり、ステップバイステップよりも長い録音時間である。

- キー数が1,2,4,8と場面や用途に応じて変えられる。使用しない黒い枠は本体裏に収納できるようになっている。
- キー数に応じたオーバーレイシートを作成し、絵や文字によってキーに録音した言葉がわかるようになっている。
- 8レベル(8場面)をスイッチで切り替え、場面に応じて、それぞれに録音できる。
- オーバーレイシートの絵や文字の意味がわかり、目的のキーを選んで指先で押すことができれば、この機器の機能を十分に使いこなすことができる。
- ステップバイステップに比べて機能は、かなり多いがその割には値段が安い。(30477円)
- 衝撃に対して強い。

### (2) スーパーカーを使用したA子(高3)について

話しかけられる言葉はほとんど理解しており、問われることには「うん(はい)／ううん(いいえ)」で返事をする。内言語をたくさん持っているのに、言葉にしての表現ができないため、今までの彼女のコミュニケーションは、自分をよく理解している人が自分の表現を通訳することで成り立ってきた部分が大きい。彼女の卒業後、彼女の発語だけでは表現しきれない部分を補い、社会へ出ているいろいろな人との関わりを持てるように、VOCA(スーパーカー)を使用することをすすめた。

### (3) 授業実践例

集 団 (授業)	個 別
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ロールプレイングゲーム ～買い物学習～</li> <li>● 果物狩りゲーム</li> <li>● 合唱</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 朝の会の司会</li> <li>● 給食クイズ</li> <li>● 劇の台詞</li> <li>● 買い物</li> </ul>

#### ①『ロールプレイングゲーム～買い物学習～』での利用

週2回の課題別学習グループで、ある程度のことばを理解できる生徒たちによる学習で実践した。上述のA子を含む高2、高3の5人の生徒たちでそれぞれにVOCA(A子以外はステップバイステップ)を持ち、自分たちが音声であらわせない言葉をVOCAで補い、コミュニケーションを広げることを目的に学習している。

前もって食材模型を「果物」「野菜」「ご飯もの」に分け、それぞれの食材を3つのかごに入れておく。生徒を「お客」と「店員」の2つのグループに分け、実際に買い物に行く場面を想定しながら、「買い物」を進めていくという買い物ごっこをする。ただし、スーパーカーは言葉を選ぶことができるが、ステ

# 器の研究 ～スーパーカーの活用～

ステップバイステップは、機器の設計上、あらかじめ録音しておいたことばを順番に使うことしかできない。

お客さん役(スーパーカー) 店員役(ステップバイステップ)



- ① いらっしやいませ
- ② どれにしますか
- ③ 980円です
- ④ ありがとうございました

最初は「店員」と「お客」間の「これ下さい」「ありがとう」といった簡単な内容だったが、生徒がやりとりのパターンを覚えていくにしたがい、ステップバイステップ、スーパーカーの内容もより実際の買い物の会話に必要な言葉に変えた。場面を想定した内容になっていった(「今日はカボチャが安いよ」「高いわね おまけしてよ」「また来るわね」など)。

全員がそれぞれ自分のVOCAを持つと、より会話らしくなるかと思っただが、ステップバイステップでは言葉数が6～7と増えてくるとスイッチを早く押してしまったり、手が当たって音が出てしまうなど、会話がかみ合わなくなることが起こってしまった。

その点、スーパーカーには絵があり、自分の意思でことばが決められるし、間違っても繰り返しや後戻りができる点がより使いやすいと実感した。それぞれの生徒たちは数回の学習後、実際にコンビニへ買い物に行き、レジで店員とのやりとりをしたり、お金の支払いを上手にすることができた。また修学旅行では、A子は食事係で食事の前の挨拶、買い物の場面で使用し、他の生徒たちも出発式の挨拶や買い物でVOCAを使用し、それぞれの成果を確認することができた。

授業のまとめとしてコンビニに行ったときにはオーバーレイを少し変更してA子が介助してもらった先生に、自分で商品を指示できるように『上、下、右、左』の絵にかえた。実際の買い物ではA子はそれを上手に使って買い物ができる。



## ②『合唱』での利用

「カエルの歌」を5人で1小節ずつに分けてVOCAに録音し、順に押してみんなで歌を演奏してみた。初めての時はタイミングが遅れたりしてあわないところもあったが、最後まで演奏できたので、歌として発表できる、と確信した。年末のクリスマス会に向けて歌を発表しよう、と「ドレミの歌」の替え歌をVOCAですることになり、ひとり1つのパートを録音して自分のところでタイミングよく押す練習を繰り返した。事前の練習ではスイッチを近づけたり、肩を叩く合図に合わせてスイッチを押し、合唱らしくつなげることができた。本番直前にステップバイステップを使う生徒4人は音を2つずつ録音し、スーパーカーのA子は4面のオーバーレイシートを使い、ド、レ、ミから始まる3つの音と、「さあうたいましょう」という歌詞を担当した。本番では前の人の音を聴きながら自分の番を待つスイッチを押し、練習した曲が最後までスムーズに流れて、仲間たちから大きな拍手をもらった。

## 3. まとめと今後の課題

コミュニケーション意欲を育てていくためには、生徒にできるだけ多くのコミュニケーションの機会を与え、生徒からの働きかけには適切に反応することが基本であると考え。A子もスーパーカーを使用して、人とやりとりする楽しさや、音声によるコミュニケーションの便利さを学ぶことで、外に向かう意欲が育ってきているようである。間に人を介さずにスーパーカーを操作するという、自分の行動だけで相手に気持ちが伝わる喜びを感じている。ただ残念なのは、スーパーカーの使用には事前の準備が必要なので、限られた場面での使用しかできなかったことである。

今後、次のステップとして、生活のいろいろな場面で使用していくことを考えると、登録すべき「言葉の選択」も重要なポイントになってくると思われる。日常生活の中での要求行動を観察し、情報収集しておく必要があるだろう。

2005年7月から始めた「スーパーカー」であるが、A子は初めての相手に自分の言いたいことが伝わる喜びや、自分の要求が実現する満足感を感じているようである。家族・仲間・先生とのやりとりで育ってきたコミュニケーションへの意欲が、卒業後も外に出て、地域の人とのコミュニケーションへと広がることを期待したい。